

令和7年度 第2回総合教育会議資料

栗東市立中学校の 部活動の地域展開

令和8（2026）年3月

栗東市教育委員会

Ⅰ 栗東市の「部活動の地域展開」

1. 国の示す部活動地域展開

国においては、「令和8年度～令和13年度の期間に前半3年間で休日の部活動の地域展開の実現を目指し、後半3年間で休日の部活動すべてを地域展開する。また、平日の部活動を含めた地域展開を推進する」という方向性を示しています。県は、具体的な方針は示していないものの、前半の3年間で地域展開を進めていきたい旨は示しています。

2. 栗東市の部活動地域展開推進方針

国が示した方向性を受け、本市では以下を方針として部活動地域展開を進めます。ただし、国や県の動向に注視しつつ、後期については方針転換も有り得るものとします。

○令和6年度から7年度末までを栗東市内の部活動の地域展開に向けた「体制作り強化期間」とする
○体制作り強化期間終了時（令和7年度末）に、市内に地域部活動クラブ3団体の設立を目指す
○「体制作り強化期間」の地域部活動設立の成果・課題の評価・見直しをはかり、令和8年度以降を「実施運用期間」とする
○実施運用期間前期（令和8年度～10年度）で地域部活動クラブ10団体の設立を目指し、可能な範囲で中学校部活動を地域部活動に置き換える
○実施運用期間後期（令和11年度～13年度）で、すべての中学校部活動を地域部活動クラブに置き換える

3. 栗東市地域部活動クラブの進捗状況(令和8年3月現在)

	打診中	立上中	活動中	状況
柔道			●	○県中体連事務局に令和7年度の地域クラブとして登録し、栗東地域クラブとして初の中体連の大会に参加した
卓球			●	○地域卓球クラブの指導者として、栗東中学校の卓球部の指導に当たる。 ○当面は部活動参加生徒に混乱を来さないよう、学校と調整を図りながらすみ分けを行い、土日から平日の活動への拡張を進めている
野球			●	○栗東野球クラブの立ち上げのため、指導者と協議し、9月に地域クラブとして登録。葉山中学校にて体験会を実施し、会員を募集している。 ○令和8年度の本格的な活動に向けて調整中
書道		●		○栗東西学区を中心に、地域の指導者と協議し、10月に地域クラブとして登録。令和7年度に体験会を実施し、会員を募集している ○令和8年度の本格的な活動に向けて調整中
文化		●		○栗東市文化協会が受け皿となり、地域文化部活動クラブ設立に向けて協議中。12月～1月にかけて体験会を開催し、会員を募集していく ○令和8年度の本格実施に向けて検討している
剣道	●			○栗東市剣道連盟の理事長と懇談し、地域クラブ設立に向けて協議中。栗東市剣道連盟が受け皿となる予定 ○理事会を開催し、承認を得た後、市に登録予定
バスケ			●	○栗東市ミニバスケット協会の方と懇談し、地域クラブとして登録。 ○兼職兼業の教員と連携し、現在活動中。 ○令和8年度から本格的に活動
吹奏楽	●			○栗東市の中高生を主とした吹奏楽団体を立ち上げたいという思いの指導者と接触。吹奏楽部の地域展開は楽器や場所の課題が多い。今後協議を重ねていく予定

4. 今後の地域展開

(1)既存部活動の地域部活動クラブへの移行	○卓球部の地域移行をモデルとし、他の競技団体への拡充を目指す ○他の2中学校の部員も参加できるのか検討していく ○剣道部、バスケ部、吹奏楽、ソフトテニス部、陸上部等、受け皿となりそうな団体へ働きかける
(2)中学校にない部活動の地域部活動クラブの立ち上げ	○文化芸術活動の地域移行として、地域の方や文化協会が受け皿となり、茶道や華道、書道など、文化部活動として活動を開始できるように検討中 ○レスリングやゴルフの中学生の活動機会を確保できるように、関係団体に働きかける
(3)先行モデルの検証	○柔道部と卓球部の活動成果と課題を見直し、今後の地域展開に活かす
(4)教職員の「兼職兼業制度」の活用	○部活動を指導したい教職員と懇談し、兼職兼業制度に則り、可能な限り、教職員による地域クラブの立ち上げに向けて働きかけをしていく

5. 地域展開を進めるにあたっての課題

(1)持続可能な財源の確保	○令和8年度以降の国の実証事業が廃止になり、新たに公的地域クラブに対する補助金制度が設けられた。この制度を活用するが、指導者の報償費の全額負担は難しく、市独自の財源の確保は必要となる
(2)受け皿団体や指導者の確保の限界	○既存の地域活動団体（スポーツ少年団やスポーツ協会の登録団体）に受け皿となってももらえないか働きかけるが、報償費や賠償責任の問題があるため、確保に限界を迎える
(3)事務局体制の強化	○サポーターズクラブ参加企業と各地域部活動クラブをつなぐために、会報などの定期的な情報提供が必要となるが、現在の事務局の体制では困難で、体制強化に向けた事務局の増員が必要となる

6. 持続可能な財源の今後の方向性

現状	今後の方向性
○国の「令和7年度実証事業」において、委託費により指導者の報償費等の確保を図る(50万円) ○市内の地域貢献団体(栗東ロータリークラブ)の援助をもとに基金を創立し、賛同する企業や市民等(サポーター)から継続的に寄付を集め、地域部活動クラブに分配する仕組みとして、栗東市中学生地域部活動サポーターズクラブを設立。継続的支援を行っていただけの会員を募集する	○国の「令和8年度補助金事業」から指導者の報償費の確保を図る(120万円程度) ○サポーターズクラブを周知し、拡充していく

